

令和6年度 那須塩原市建設工事成績評価結果

1. 対象

那須塩原市が発注した設計金額130万円を超える建設工事かつ、令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）に契約検査課が完成検査を実施した建設工事を対象とする。

建設工事完成検査件数

[単位：件]

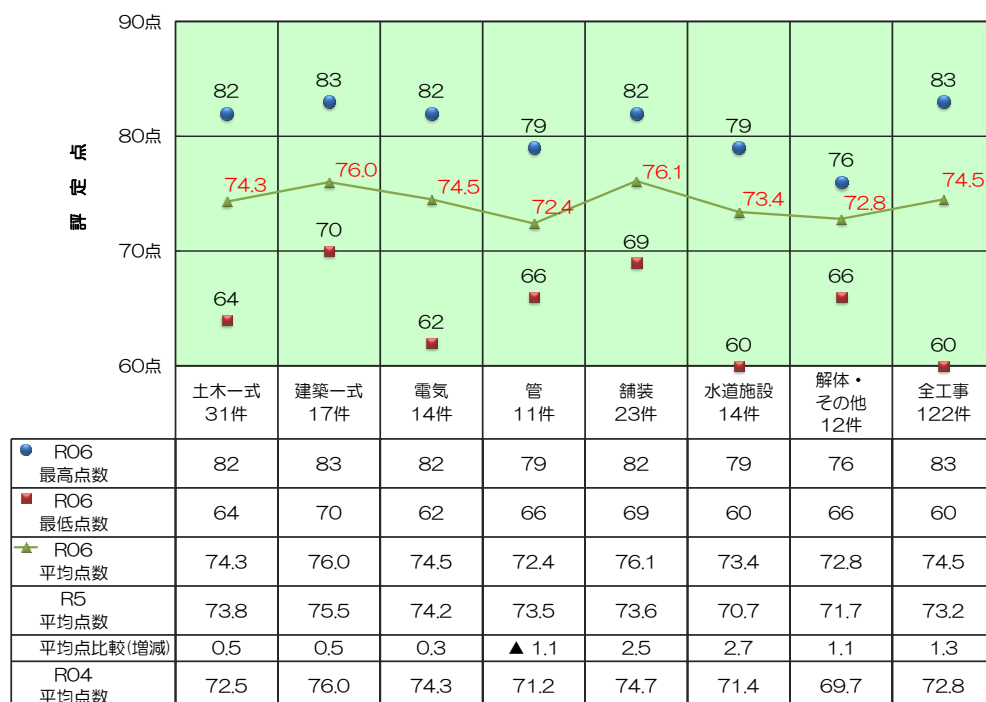
工種別	令和6年度	令和5年度	増 減
土木一式工事	31	38	▲ 7
建築一式工事	17	8	9
電気工事	14	13	1
管工事	11	15	▲ 4
舗装工事	23	34	▲ 11
水道施設工事	14	17	▲ 3
その他工事	12	18	▲ 6
計	122	143	▲ 21

2. 評定点

令和6年度に完成検査を実施した全工事の平均評定点は74.5点であり、直近3か年では大きな変化はないが、上昇傾向にある。（図1参照）

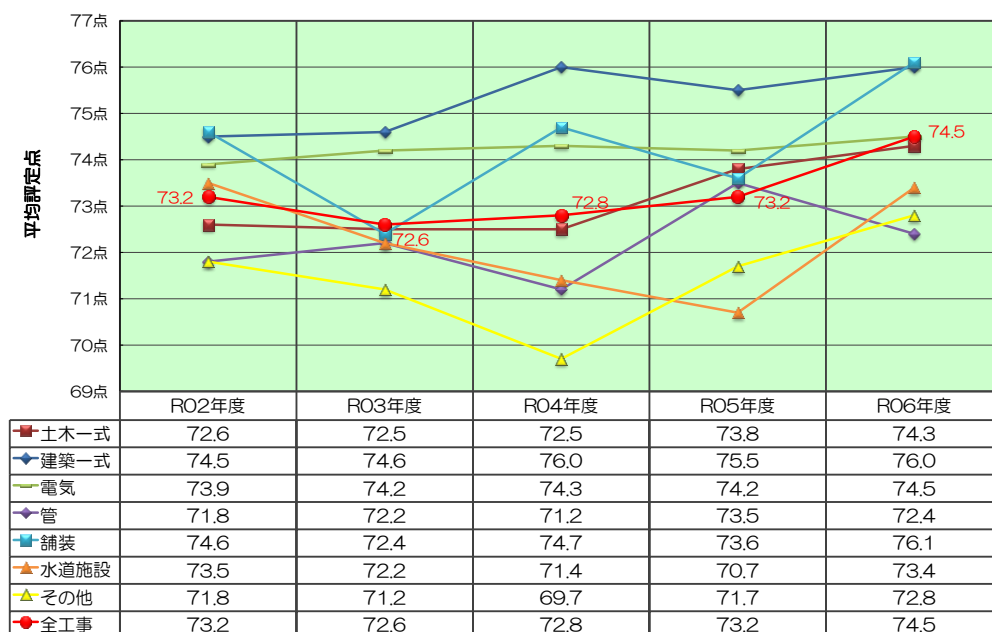
前年度との比較では、全体で1.3ポイント上昇したほか、工種別では管工事のみ下降する結果となったが、土木一式工事、建築一式工事、電気工事、舗装工事、水道施設工事及び解体・その他工事では上昇する結果となった。

図1. 令和6年度 建設工事【工種別一平均、最高、最低工事成績評価】



過去5か年の平均点推移では、令和6年度の全ての工種の平均評定点で70点を超えており、管工事以外の工種では令和5年度の平均評定点より増加しているなど、一定程度以上の品質確保が図られていると考えられる。懸念点であった水道施設工事の平均評定点の下降傾向だが、令和5年度の70.7点から令和6年度は73.4点と2.7点増加し、大きく上昇する結果となった。舗装工事と同じく2.5点と大きく上昇している。(図2参照)

図2. 過去5か年の建設工事【工種別一平均工事成績評定点推移】



3. 総合評価

総合評価のランク（以下、評価という。）別に分類した場合の令和6年度における工事件数は、A評価は9件、B評価は54件、C評価は56件、D評価は3件、E評価は0件である。

全工事件数に対する各評価工事件数の割合について、A評価は7.4%（令和5年度：4.2%、令和4年度：4.4%）であった。B評価は44.2%（令和5年度：31.5%、令和4年度：27.4%）となり、C評価は45.9%（令和5年度：60.8%、令和4年度：66.7%）となった。今後改善すべき事項があるD評価対象工事は2.5%（令和5年度：3.5%、令和4年度：1.5%）となり、令和5年度から1.0ポイント減少したものの、ほぼ横ばいである。指名に影響を及ぼすおそれのあるE評価対象工事は0件であった。

全工事の令和6年度工事と令和5年度工事を比較すると、A評価の割合は令和5年度から3.2ポイント増加した。B評価の割合は令和5年度から12.7ポイントと大きく増加し、C評価の割合は令和5年度から14.9ポイントと大きく減少する結果となり、ここ数年におけるB評価及びC評価の割合の推移は、B評価は上昇傾向にあり、C評価は下降傾向にある。

工種別の令和6年度工事と令和5年度工事を比較すると、土木一式工事、建築一式工事、電気工事及び舗装工事においては、令和5年度ではC評価の件数の方がB評価の件数よりも多かったが、令和6年度ではB評価の件数の方がC評価の件数よりも多い傾向となり、逆転が生じた。一方で、管工事、水道施設工事及び解体・その他工事においては、令和5年度及び令和6年度ともにC評価の件数の方がB評価の件数よりも多い傾向に変わりはなく、逆転は生じなかった。(図3、図4参照)

図3. 令和6年度建設工事 【工種別—総合評価】件数分布状況

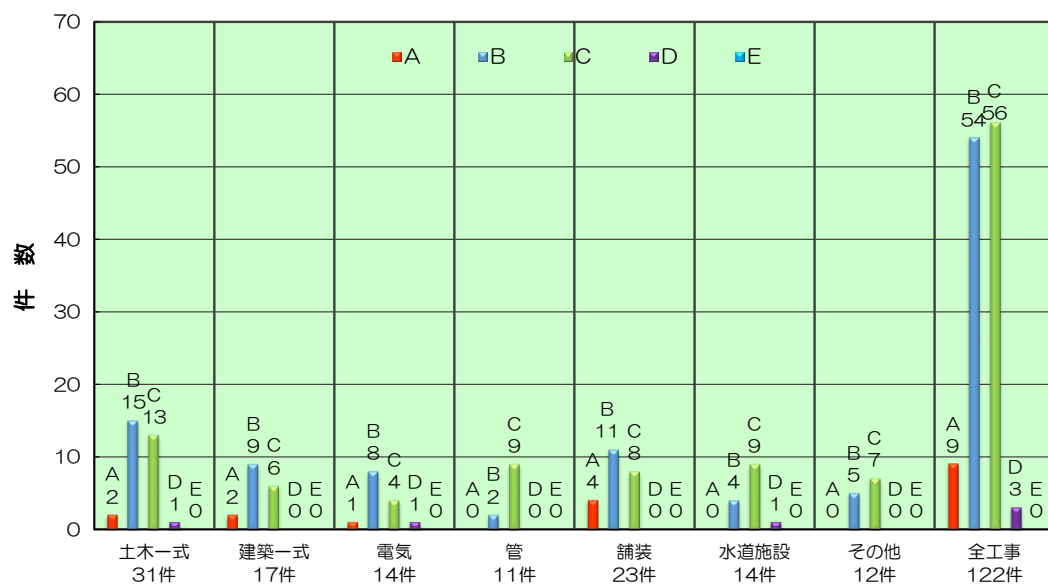


図4. 令和5年度建設工事 【工種別—総合評価】件数分布状況

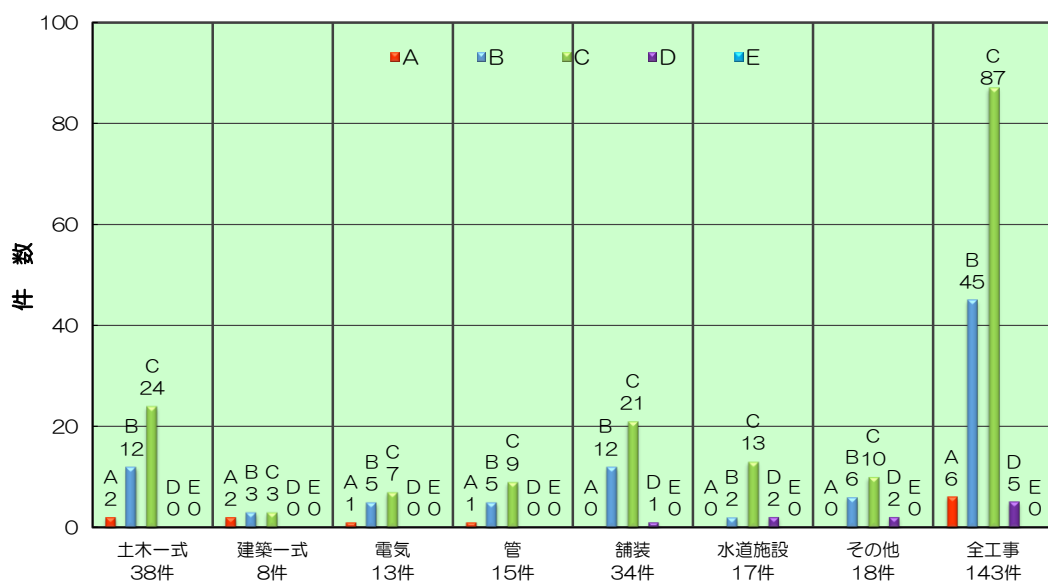


表1. 総合評価の標準

ランク	評定点の標準値	総合評価の標準	
A	80 点 以上	他の模範となる優秀な工事	
B	75～79 点	標準的工事	A ランクではないが、標準的工事の中で優秀なもの
C	65～74 点		標準的な工事
D	60～64 点		E ランクではないが、今後改善すべき事項がある工事
E	59 点 以下	今後指名等に影響を及ぼすおそれのある工事	